

# 一人一人が生き生きと活動する学級経営の工夫

## ～読書活動の実践を通して～

### 目 次

I	テーマ設定の理由 .....	21
II	研究目標 .....	22
III	研究仮説 .....	22
IV	研究内容 .....	22
V	研究の全体構想図 .....	23
VI	研究の内容 .....	24
1	学級経営について .....	24
(1)	学級経営の基礎基本 .....	24
(2)	学級経営を進める担任の姿勢 .....	24
(3)	学級経営の実際 .....	25
(4)	学級経営年間計画 .....	26
2	特別活動と学級経営との関わり .....	28
(1)	特別活動の特質 .....	28
(2)	学級活動の特質 .....	28
(3)	集会活動の特質 .....	28
3	学級経営と読書活動 .....	29
(1)	読書意欲に関する児童の実態 .....	29
(2)	読書の意義 .....	31
(3)	3年生の発達段階からみた読書活動 .....	31
(4)	読書指導を進めるにあたっての担任の役割 .....	31
(5)	学級における読書活動 .....	31
(6)	読書意欲を高める工夫 .....	32
VII	授業実践の結果と考察 .....	34
1	授業実践①「図書の分類」 .....	34
2	作業仮説①の検証 .....	35
3	授業実践②「楽しい読書会をしよう」 .....	37
4	作業仮説②の検証 .....	40
VIII	研究の成果と今後の課題 .....	42
1	成果 .....	42
2	課題 .....	42
3	終わりに .....	42
	《主な参考文献》 .....	42

## 一人一人が生き生きと活動する学級経営の工夫 ～ 読書活動の実践を通して～

宜野湾市立嘉数小学校 教諭 新垣 留美子

### I テーマ設定の理由

社会の大きな変化の中で、子ども達の生活環境も変わりつつある。その社会で生じる様々な問題に対し学校教育においては、子どもが自ら学び、考え、主体的に判断し解決する力と、他人と協調し、他人を思いやる心、感動する心、たくましく生きるための健康や体力の「生きる力」を育成することを強調している。

その「生きる力」を育むには自分を表現し、相手を理解し、共に活動する場である学級における特別活動の時間が有効であると考えている。

特別活動の目標は「望ましい集団活動の中で自主的、実践的態度を育てる」であるが、その中で育つ、やる気と自信が、今求められている「生きる力」であると思う。

これまでの経営を振り返ってみると、「認め、励まし、支え合う」をめあてに全員が参加する活動を取り組んできたが、行動力のある子達にスポットが当たりがちで児童間の良さを認め合う場面づくりや、主体的に行動させる支援が不十分ではなかったかと反省も多い。その反省を踏まえ今年度は、一人一人にやる気を持たせる活動を考えてみた。

自分から働きかけなくても手軽に得られる情報、一人遊びのテレビゲームやビデオ、そんな生活環境にある子ども達に、学級集団の中で、皆と一つのことに取り組む楽しさを味わわせたいと思う。そこで、読書はきっかけさえあれば誰でも取り組める活動であるということと、活動を工夫することで学級の仲間と実践の喜びを味わうことができるであろうという思いから読書活動を学級経営の中に位置づけることにした。アンケートの結果をみると、ほとんどの子が「読書が好き」と答えている。そして今年度の目標冊数を百冊以上と意欲をみせている。ところが、読書と外遊びの二者択一では外遊びを選んだ子が多かった。発達段階からみて外へ刺激を求めるのは当然であろう。

「大切だから読みなさい」ではなく、読みたい気持ちを起こさせる工夫をしていきたい。

読書で得る知識があり、読書で培われる豊かな心がある。よい本と出会わせるための環境作り、好奇心ゆさぶる読み物、心うつ読み物等、読みの広がりを持たず支援も大事であり、このような支援が自ら読書を楽しもうとする主体的態度を育てることになると思われる。子ども達は常に学級の中で自分の役割があり、そこで力を発揮し、みんなに認められたいと願っている。そのような学級集団での学び合いはとても大切であるし、読書集会などで、自分達のやりたいもの、得意なものを発表する活動を通して、一人一人のよさが生かされ認められるだろうと思う。そして皆でやり遂げる喜びを共有するなかで、更なるやる気と自信を持ち学校生活全般に生き生きと活動する子どもが育つだろうと考え、本テーマを設定した。

## II 研究目標

一人一人が生き生きと活動する学級づくりをするために、児童全員がよさを発揮できるような、読書活動を仕組み展開する。

## III 研究仮説

### 1. 基本仮説

読書活動を学級経営の中に位置づけて、次のような全員参加の活動を展開すれば学級生活全般に、生き生きと活動する子が育つだろう。

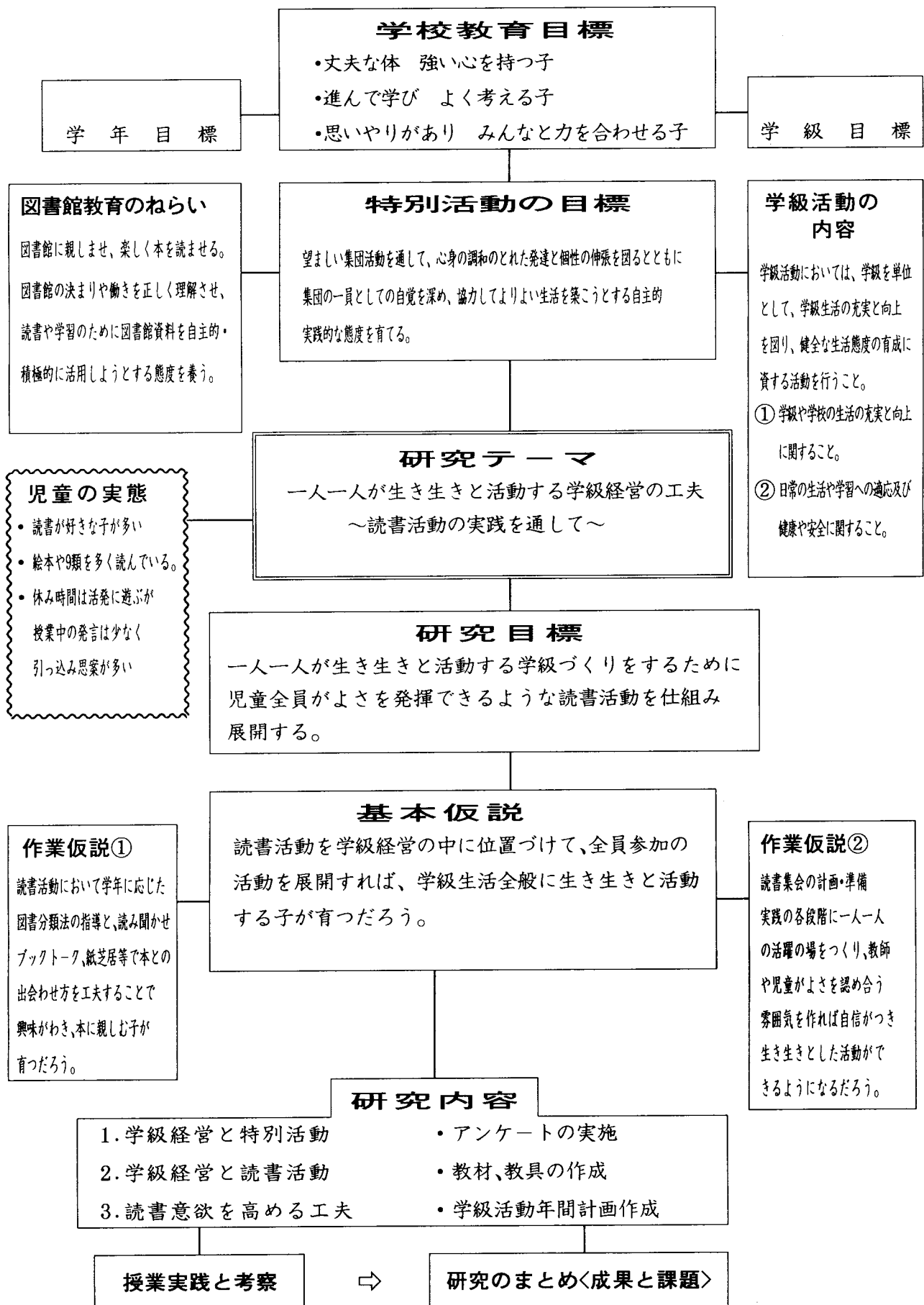
### 2. 作業仮説

- (1) 読書活動において学年に応じた図書分類法の指導と、読み聞かせや、ブックトーク紙芝居を使って本との出会わせ方を工夫することで興味がわき、本に親しむ子が育つだろう。
- (2) 読書集会の計画・準備・実践の各段階に一人一人の活躍の場をつくり、教師や児童がよさを認め合う雰囲気を作れば自信がつき、生き生きとした活動ができるようになるだろう。

## IV 研究内容

1. 学級経営における特別活動の意義、役割
2. 学級経営における読書活動
3. 読書意欲を高めるための指導の工夫

## V 研究の全体構想



## VI 研究の内容

### 1 学級経営について

#### (1) 学級経営の基礎・基本

##### [学級づくり]

4月、新しい出会いに胸おどらせて進級してくる子どもたちとの対面、その緊張感は何度体験しても変わらない。担任発表を期待と不安の入り交じった顔で、息をひそめ聞き入る子どもたちも同じであろう。

そして発表と同時に担任の顔を、願いを訴えかけるように見る。

学級経営はそうした児童一人一人の願いをしっかりと受け止めることから出発することが大切であると思う。

学級は学校における子どもたちの学習や生活の基盤であり、子どもたちが自由に意見をのべあったり活動したり、お互い支え学び合う場となるので、学級担任としてどの子にも居心地のいい学級づくりをしないとイケないだろう。

##### [学級経営の領域と内容]

○学習指導要領や指導書に基準は示されてなく、学級経営の時間というものもない。

正規の課程の中では特別活動のねらいと特質からみると、学級活動に近接しこのことから、学級経営は担任教師の「やる気とアイデア」が問われるものである。

○学級経営は「指導領域的内容」と「条件整備的内容」に分けられ、それは目標・児童理解・計画・組織・評価を基盤にしている。

『初任者研修:学級経営資料より』

#### ① 指導領域的内容

☆教科指導・・・教科、道徳、特別活動 ⇒ 学力の定着・学習態度の育成  
教材研究

☆生活指導・・・日常生活 ⇒ 子ども理解・生活習慣の育成  
けじめある行動

#### ② 条件整備的内容

☆教室設営・・・教室環境の整備、備品や資料の管理 ⇒ 清潔・明るく・安全

☆学級事務・・・指導要録、保健事務、テストの採点 ⇒ 能率よく・もれなく

☆家庭連絡・・・家庭、地域社会との連絡、協力 ⇒ 子どもの変容を伝える

#### (2) 学級経営を進める担任教師の姿勢

※「教師と子どもの出会いは偶然であり、子どもは教師を選べない」といわれる。学級内の雰囲気、人間関係、心を育てる等々担任がどう関わり環境をどう整えていくかで、子どもの育つ道すじに大きな違いが出てくる。それだけに責任は大きい。

一人一人の子どもに愛情をもって接し、子どもの成長を援助できるようにしたい。

- ① 学級づくりの基本的な考えを持ち、一貫性のある指導を心がける。  
(経営方針・児童理解)
- ② 子どもの実態や学習状況に学ぶこと。  
(個に応じた課題、指導・認め励ます援助)
- ③ 一人一人の役割を生かす工夫。  
(係活動・グループ学習で所属感、存在感を持たす)
- ④ 互いのよさ可能性を伸ばす工夫。  
(認め合う場・発表する場)
- ⑤ 一人一人の命と心を大切にする。  
(担任と子ども、子ども相互の信頼関係をきずく)
- ⑥ 学級の財産を大切にする  
(学習記録・学級日記・行事での成果)

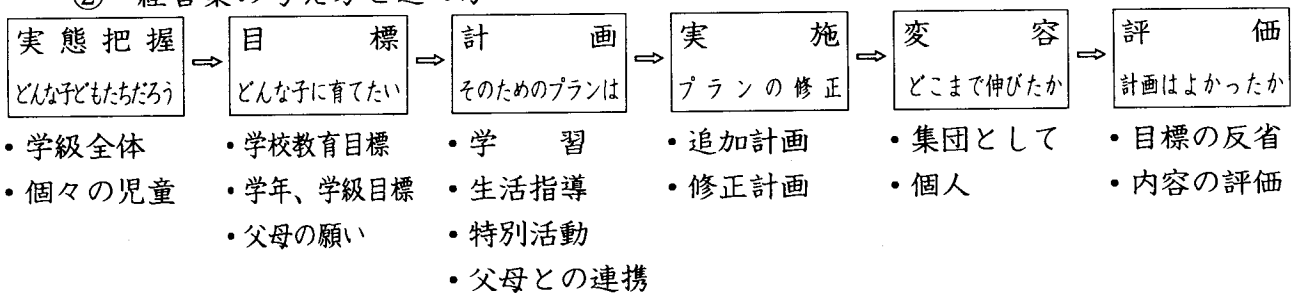
※その他に、子のよさをとらえるために常に教師自身の感性(人間性)を磨くこと。  
子を見る目、感じる心の広さ、深さ、笑顔でかかわり繊細な気配りを心がけ、子どもの要求にスピーディーな対応のできる教師でありたい。

### (3) 学級経営の実際

#### ② 学級経営案の必要性

教師は学級を受け持つとき「明るい学級を作りたい、思いやりのある子どもに育てたい」等々の願いがある。それらの学級の目標を達成するためには、その内容や方法、手だてを明示した計画案が必要になってくる。そうした学習指導計画を作成することで実践への取り組みが具体化できる。計画や考えを持たずに進めると、その場かぎりの経営になりかねない。年間の見通しをもち考えを明らかにしながら学級経営をしていきたい。

#### ② 経営案の考え方と進め方



※日々成長する児童が対象なので、途中での修正や改善は必然的になされる。そのために今実践していることが目標に適切であるか絶えず評価もなされ修正が加えられるよう、P(計画)D(実践)S(評価)のサイクルをあらかじめ設定しておく  
とよい。

※評価することで経営の良し悪しの原因がわかり、計画の見直しができる。それを次の活動に生かすことができる。

(4) 学級経営の年間計画

— 学期 ※児童理解に努め一人一人のもつよさをお互い認め合える集団づくり				
月	4月	5月	6月	7・8月
目標	☆学級生活の基盤作り	☆仲間意識を育てる	☆一人一人を生かす 学級集団作り	☆良さを認め合い充実 した夏休みの計画
学校 学年 行事	◆始業式 ◇学年びらき ◆身体測定 ◆家庭訪問	◆春の遠足 ◆保健行事〈歯・視力〉 ◇一年生を迎える会(児) ◇知能、学力検査 ◇校区探険	◆内科検診 ◆避難訓練 ◆平和講演会 ◇写生会、校区探険 ◇プール開き	◇七夕集会(児) ◇市内めぐり ◆大そうじ ◆一学期終業式
学級 活動	・学級開きの会 ・学級の組織 係、当番、班づくり ・朝の会、刷りの会の進め方	・学級目標、学級憲法を つくろう ・学校生活の安全 ・当番、係活動のチェック	・読書会の計画を たてよう ・平和を考える会 ・丈夫な歯について	・七夕への願い個人、学級 ・一学期頑張ったね会 ・夏休みの計画
読書 活動	◎読書の楽しみ方 読み聞かせ開始 ・楽しい話を読もう(日本) ・草花、自然の本	◎図書の分類、読書記 録の方法を知ろう ・虫、生き物の本 ・詩を読もう	◎学級読書会をしよう ・平和に関する本 ・歯の健康	◎読書新聞を書こう ・楽しい話(外国) ・七夕の本 ☆長編を読もう
児童 理解	・自己紹介カード ・指導要録から ・作文「こんな3年4組に」 ・健康調査、家庭調査表	・家庭訪問での情報を 生かす ・交友関係の調査	・遊び、趣味の調査 ・日記指導で個別理解	・交友関係の観察 ・夏休み事前指導、計画 ・自分でつける 「よいこのあゆみ」
学習 指導	・学習傾向の把握 ・学習のルールづくり 聞き方、話し方、ノートの書き方	・家庭学習と自主学習 ・意見の言い方 ・声のものさし	・学力検査結果をもとに 個別指導 ・水泳指導、泳力調査	・一学期のまとめ 反省を次にいかす ・夏休みの課題を考える
生活 目標	・話をしっかり聞く ・記名をする	・友達の良さをみつける ・元気なあいさつ	・時間を守る	・後片付けをきちんと ☆規則正しい生活
教室 環境	・自己紹介カード ・詩「3年生の歌」 ・時間割表	・各目標の掲示 ・声のものさし、個人写真 ・学級文庫の充実 ・前面詩「あの青い空のように」	・前面詩「読書の歌」 ・側面読書の木 ・絵、習字の作品	・前面詩「きりしなうた」 ・読書新聞 ・一学期の反省(作文)
学級 事務	・各諸帳簿の作成 ・時間割の作成 ・家庭訪問の準備 ・遠足計画	・学級PTAの準備 ・学級経営案の作成 ・個人写真撮影	・水泳カード ・健康診断結果のまとめ と治療勧告	・よいこのあゆみ作成 ・父母会資料作成 ・夏休みのしおり作成 ・学級経営の評価と反省
家庭 連と 携の	・学年だよりの発行 ・家庭訪問	・学年だよりの発行 ・学級PTA結成 ・参観日	・学年だよりの発行 ・親子レクの開催 ・参観日	・学年だよりの発行 ・学級懇談会 ・地域懇談会 ☆暑中見舞いはがきの発送
反省 ・ 改善 点				

## 学級経営の年間計画

※みんなは一人のために、一人はみんなのために				
二学期 クラスのチームワークを高める集団づくり				
月	9月	10月	11月	12・1月
目標	☆生活リズムを戻し 諸活動の意欲を高める	☆みんなと協力し 行事を成功させる	☆集団活動を通し 団結力を高める	☆2学期のまとめをし みんなの頑張りを 認め合う
学校行事	◆始業式 ◆身体測定 ◇運動会への取り組み ◆夏休み作品展	◆運動会 ◆読書月間 ◆校内童話会 ◆避難訓練	◆社会見学  ◆ありがとう集会(児)	◆大掃除  ◆二学期終業式
学級活動	・2学期も頑張ろう会 夏休み体験発表 ・係、班づくり ・運動会を盛り上げよう	・3年生折り返し点 半年を振り返ろう会 ・目の健康 ・当番、係活動のチェック	・学級紹介の会 群読 ・働く人々への感謝	・年忘れお楽しみ会 2学期の頑張り確認 ・冬休みの計画
読書活動	◎読書発表会 夏休みに読んだ本 ・民話を読もう(外国) ・昆虫の本	◎読書月間を楽しもう ・課題図書、指定図書 ・からだの本を読もう	◎群読大会をしよう 《参観日》 ・働く人々の本を読もう ・詩を読もう	◎読書新聞を書こう ・科学の読み物を読もう ☆長編を読もう
児童理解	・夏休み体験発表 ・作文「こんな3年4組に」 ・健康調査	・生活実態調査 放課後の過ごし方 遊び、テレビ時間	・係活動、当番活動を通 しての観察	・学習進度の把握 ・冬休み事前指導、計画 ・自分でつける 「よい子のあゆみ」
学習指導	・学習傾向の把握 ・家庭学習の定着 ・学習用具の点検	・読書の大切さ ・良い学習姿勢	・自ら進んで学習する ことについて ・個別指導	・2学期のまとめ 反省を次にいかす ・冬休みの課題を考る
生活目標	・動作の機敏	・体の清潔に気を配ろう	・時と場に応じた あいさつをしよう	・学校をきれいに しよう ☆新年の目標を立てる
教室環境	・2学期の目標 ・詩「チコク王」 ・夏休みの作品展示	・本の紹介コーナー ・詩「アイウエオ体操」 ・感想画、文、読書ノート	・前面 詩「おまつり」 ・社会見学スナップ写真	・前面 詩「気球に乗ってどこまでも」 ・読書新聞 ・2学期の思いで(作文)
学級事務	・夏休みの作品整理、 展示 ・運動会の計画、準備	・読書月間の準備 ・学級文庫の整理 ・感想画、文コンクール	・授業参観の計画 ・社会見学の計画と準備	・よいこのあゆみ作成 ・父母会資料作成 ・冬休みのしおり作成 ・学級経営の評価と反省
家庭と連携	・学年だよりの発行 ・運動会の準備、呼びかけ ・参観日	・学年だよりの発行 ・親子レクの開催 学年ドッチボール大会	・学年だよりの発行 ・参観日	・学年だよりの発行 ・学級懇談会 ☆年賀状の発送
反省・改善点				

※3学期は紙面の都合上省略付録として準備致します。



## 2 特別活動と学級経営とのかかわり

### (1) 特別活動の特質

- ・ 集団活動を通して自主的、実践的な態度を育てる
- ・ 学級の枠を越えて学年、学校全体としての活動
- ・ 自己を正しく生かす場や機会が多い

『小学校指導書特別活動編』（文部省）

「自ら学ぶ意欲、主体的に判断し解決する力、他人と協調し思いやりの心の育成」が強調されている今日、上記のような特質をもつ特別活動の時間を充実させることが重要だと思われる。「望ましい集団活動を通して」という目標は特別活動のみであることから、望ましい人間関係の育成に特別活動の果たす役割が大きいことがわかる。

学級経営においても、望ましい人間関係を深めていくために担任の細かな計画と実践が要求されるだろう

### (2) 学級活動の特質

- ・ 学級を単位とした集団活動
- ・ 「なすことによって学ぶ」という児童の自主的、実践的活動
- ・ 教師と児童、児童相互の人的ふれあいを基盤とする活動
- ・ 集団活動を通し個性や能力の伸長、協力の精神の育成

『学級活動12カ月』（文教書院）

学級活動は特別活動の内容のうちで、学級経営との関わりが深いことがわかる。児童の学級活動実践の積み重ねが、「自主性・豊かな人間性」を育成する特別活動の基盤となっている。

### (3) 集会活動の特質

- ・ 児童全員が参加し楽しく充実感を得られる活動が展開できる
- ・ 集会活動を通して協力、連帯感が生まれ、学級の絆を深められる
- ・ 「表現」する実践面も伴い児童の創造性、社会性の実践の舞台になる
- ・ 学級から学年、全校集会へと場面に発展性がある

『教育技術 子どもが生きる特別活動』（小学館）

集会活動は、学級の児童全員が主体的に実践していく活動である。共通の目標に向かい協力しあって活動していく中でお互いのよさを認め合い、より良い学級を築こうとする意欲も高まる。それらの意欲やよい雰囲気は学級経営を進める際に大いに役立つだろうと思う。

以上のことから

※学級経営は教師の仕事であるが、特別活動の基盤としての学級活動を展開するためには学級経営に子どもたちの創意や活動を取り入れることが大事である。教師はその創意、活動を生かす場の設定と活動時間の保障をしながら学級経営を進める必要がある。

### 3 学級経営と読書活動

#### (1) 読書意欲に関する児童の実態

本研究テーマの素地となる、学級児童の読書意欲及び読書傾向を把握し、研究を進める上で参考となるよう4月にアンケート調査を実施した。

アンケートの内容と結果、考察は次の通りである。

※7月にも児童の変容をみるため同質問のアンケートを実施した。

#### ①本を読むことは好きですか

〈考察〉 ○=4月 ◎=7月

	好き	嫌い
4月	36人	2人
7月	38人	0人

○ほとんどの子が好きだと答えている。嫌いな理由として、難儀うまく読めないと答えているので、易しい物やおもしろい読み物から入り興味を持たせたい。

◎全員が好きだと答えている。これからも読書の楽しさを機会あるごとに紹介していきたい。

#### ②どのような本をよく読んでいますか (学級文庫もふくめて)

	絵本	童話	生き物	歴史	伝説	その他
4月	21人	11人	5人	0人	1人	0人
7月	13人	10人	7人	1人	2人	5

○絵本や童話をよく読んでいるが、あお虫を学習しているためか生き物の本に興味を示す。

◎あ恐竜などの図鑑を友達で囲んでいるのを見かけるが、それだけで終わってしまう。

3年生の目標は「読みの領域を広げる」であるのでいろいろなジャンルの本を読ませたい。

◎読書シールなどで自分の読書傾向を確認してから、少しずつではあるが読みの領域が広がってきている。

#### ③二年生の時の読書量と三年生の目標冊数について

	20～50冊	51～100冊	100冊以上
2年	5人	23人	10人
3年		4人	34人

○どの子も読書が好きで意欲がうかがえる。

#### ④調べる勉強は好きですか

	好き	嫌い
4月	28人	10人
7月	30人	8人

○調べる勉強は好きと答えているが、問い⑤では調べるための図書館利用はほとんどしてない。図書館利用の利便さを知らせ活用させたい

#### ⑤図書館によく行きますか

	本を借りに	調べ学習	いかない
4月	35人	1人	2人
7月	36人	0人	2人

◎◎図書館=本を借りるところというイメージを持っている

#### ⑥ラベルについて知っていますか (実物をみせての質問)

	知っている	知らない
4月	25人	13人
7月	34人	4人

○知っていると答えたのは25人いたが、図書館の本についているシールであることだけを知っていて、実際本の分類番号を表していることを知っているのは3人だけである

⑦読みたい本をどのようにさがしていますか

	先生や 友達に聞く	絵や 文をみて	全部の たなをみる	ラベルで さがす
4月	11人	14人	10人	3人
7月	5人	6人	5人	22人

○分類番号を意識して本をさがしているのは3人だけである。図書の分類法と図書配列について知らせたい。

◎図書分類について学習してからラベルを意識して本をさがす子が多くなった。

⑧本を読んだ後どうしていますか

	読書ノート に書く	友達に 話す	家の人に 話す	何も しない
4月	4人	10人	5人	19人
7月	15人	11人	6人	6人

○感想を書く子が少ないので読書ノートを工夫して、楽しく記録できるさせたい。

○友達や家の人に本の紹介ができるということは、読書の良さを広げようとする意欲がうかがえた。

◎読書記録をする子が増えているが、まだまだ書けない子もいるので読書ノートを書かせる時間を確保したい。

⑨家でも読書をしていますか

	家族と一緒に	ひとりで	読まない
4月	2人	26人	10人
7月	6人	27人	5人

○家でも本をよく読んでいるようである。家の方と一緒に読書の良さも広げていきたい。

○部活、習い事、塾があり読書ができないという子もいた。

◎家の人や妹、弟と一緒に読むという子が増えてきた。

⑩市民図書館を知っていますか

	知っている	知らない
4月	34人	4人
7月	38人	0人

○校区内に市民図書館もあり読書環境にはめぐまれている。よく利用している子と、まだ一度も利用したことのない子がいる。また、市民図書館も知らない子がいるので家族に協力を呼びかけ利用させたい。

⑪読書と外遊びどちらが好きですか

	読書	外遊び
4月	9人	29人
7月	10人	28人

○3年生は元気に外にでて遊ぶ方が好きと答える子が多いので読みたい気持ちを起こさせる工夫をしていきたい。

◎読書も好きだけれどやっぱり外遊びがいいと答えていた。

以上がアンケート結果である。学級の子どもの読書意欲、読書傾向、課題などをふまえて研究を進めていくことにする。

## (2) 読書の意義

これからの社会に生きる子どもたちが豊かな心を持ち生涯にわたって自己学習を進めて行くためにも読書の果たす役割は大きく、その意味からも子ども自らが本を読もうとする意欲、また本を読む能力を身につけることはとても大切になってくるだろう。

① 読書は人間形成のための有効な手段である。

◇本を読むことで

- ・感動する心
- ・優しさ、思いやりの心
- ・生命の尊さを学ぶ

豊かな心 が育つ

② 読書は学力の土台といわれ言葉の力を育てるのに有効な手段である

◇本を読むことで

- ・思考力
- ・創造力、表現力
- ・判断力

自己教育力 が育つ

## (3) 3年生の発達段階からみた読書活動

ア. 読書傾向が絵本の世界から読み物の世界へと変化していく大事な時期である。

イ. 行動が活発になり気持ちは外に向き読書から遠ざかる子が増える。しかし一方では学級の雰囲気や友達、教師の感化を受けやすいので適切なアドバイスや励まして読書意欲も増し質的にも広がりが見られるようになるといわれている。

## (4) 読書指導をするにあたっての担任の役割

子どもたちは本を読むことが本質的には好きである。それぞれが持っている読書の芽はそのままにしておいたのでは育たない。大きくふくらんだ読書の芽をからしてしまわないよう担任の支援、援助は大切である。

水野寿美子 読書指導と学級づくり あゆみ出版

## (5) 学級における読書活動

読書の意義をふまえると読書活動が教科の学習や特別活動、道徳、すべての教育活動の中で展開していくことが大切であることがわかる。

学級の子ども達は個々のよさをもっている。教科の学習は少々苦手でも他方面での活躍を見せてくれる子どもがいる。担任としてはどの子にも学級の中で生き生きと活動してほしいと思う。そこで、アンケートの結果をもとにして、活動的で友達とのかわりが大きくなる発達段階にいる子どもたちに

ア. 本の魅力にふれさせ、読みたいという意欲を起こさせる

イ. 叱責や説教にかわる心揺さぶる本の読み聞かせ

ウ. 調べ学習のおもしろさを知らせる

エ. 仲間意識を育て全員に出番のある読書活動を計画

楽しくみんなで取り組める読書活動を展開し学級づくりの基盤としたい。

## (6) 読書意欲を高める工夫

本来読書は個人的な営みであり、読む読まないの決定権、どう読むかの選択権は読み手にある。特にギャングエイジといわれる年代の子どもたちは、読書意欲にも波が生じる。だからといって何の指導もないままだと適書に出会えず、大きくふくらんだ読書への興味もしぼんでしまうだろう。「大切だから読みなさい」だけでは、心は動かないだろう。まず本のおもしろさを知らせる必要がある。「読んでみたいな」という気持ちを起こさせる工夫として次のことを考えてみたい。

### ① 読み聞かせ

読書の基礎で、子どもを本好きにする一番の近道ともいわれる。一冊の本をみんなで楽しみ共感できるよさがある。まず興味をもたせるようおもしろい本、はらはらドキドキさせる本や、その他時間的な事も考慮に入れ、行事に関わるような本も選びたいと思う。

### ② ストーリーテリング

語り手は一人一人の子どもの表情をみながら、そして自らも表情豊かに語ることによって子どもに楽しい本の世界を知らせる方法。物語を覚えて語るのも難しい面もあるが、また違った雰囲気を実践できるのでぜひ挑戦したい。

### ③ ブックトーク

本の内容を2～3分で紹介する方法。本にあまり関心のない児童に「本ておもしろそうだ」と読むきっかけを与えたり、あるジャンルだけ読んでいる子に「こんな本もあったのか」と本の世界の広さを知らせることができる。

学級で行ったら話の続きをさっそく読み始めていた。

### ④ 学級文庫の充実

現在学級には80冊くらいの文庫を準備しているが、いつも同じ本だけではマンネリ化するだろうから、2学期には市民図書館の団体貸し出しを活用していきたいと思う。いつでも近くに本があるので読む習慣がつくと思われる。

### ⑤ 読書の木

「図書の分類」の学習事後指導として、本を読み終えたら10区分の色分けしたシールをはっていく。ジャンルごとに色分けしているのでも、自分の読書傾向がわかる。

### ⑥ 読書記録

読書記録を敬遠しがちだが、書くことで友達との読みの交流ができたり、自分をふりかえることができるよさを知らせ形式を工夫する。

ア. 「読書記録カード」を「心の貯金通帳」と呼び、「貯金を増やそう」を合言葉にする

イ. 読書ノートとして、楽しく書けるような画面にし、いつでも書けるようにプリントして読書コーナーに準備しておく。「この本おもしろかったよ」と友達に紹介しあうという形で書かせ、朝の会や帰りの会などで紹介しあいその後ファイルに綴るようになる。

⑦ **集団読書**

一冊の本について意見を言い合ったりする活動や、読み取った話を紙芝居にしたり、劇、その他いろいろな表現方法で楽しめる。

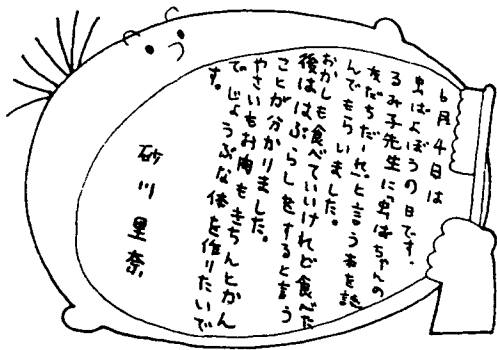
⑧ **読書の歌**

☆「あの夢 この夢」の詩に曲をつけた歌

読書のよさが歌詩を口ずさむことであじわえる。読書タイムにBGMとして静かに流すと読書する雰囲気が作れる。

※読書意欲を高める工夫としていろいろあることが分かったが、いずれの場合においても学級の児童の読書傾向や問題点を把握したうえで、実態に即した活動を展開していく必要があるだろうと考える。

=実践資料=



読書の歌

入里 叶男 : 曲



この本おもしろかったよ

本の題 **沖縄の星と星座** 著者 **狩野 哲郎** 外国書

図書館の本  
手続文庫の本  
市民図書館の本

6月11日 名 屋嘉比 奈都子

みんな 星は、すまじ  
ですか。  
この本は、春夏秋冬、  
一年の星座が、全部  
おもしろいです。  
天の川が、さける所も、わ  
かりました。  
星のことが、おもしろいから、たのしみ  
の所に、行って、読ませました。

読書記録カード			
3年4組 名前			
No.	本の名前	作者	読んだ日
1	ういたろうのぼうけん	中川 ひろたか	5/25 ◎
2	むしは"5人のむし"だ		5/4 ◎
3	カブツタテとたはて	川ま田じゅん子	6/11 ◎
4	ふるぎの森	新貝たかのり	6/11 ◎
5	王様と九人の兄弟	君島夕子	6/14 ◎
6	なあんた	ほ田 恭子	6/16 ◎
7	せんろと子ども	大田 昌秀	6/16 ◎
8	はたるのはか	野野坂 昭如	6/17 ◎
9	はいほのじゅんが	ささきあつし	6/21 ◎
10	つるのつて	シホシボ	6/21 ◎
11	ほねのふしぎ		6/28 ◎
12	クマさんたらクマさん	森山 京	6/29 ◎
13	つるん糸、こ	石井 正子	6/29 ◎
14	野ウサギはまはつ	ディックキクエス	7/5 ◎

## 学級活動指導案

宜野湾市立 嘉数小学校

学 級 3年4組 男18名 女20名

指導者 新垣 留美子

### 1. 題材名「図書の分類」

### 2. 設定理由

図書館では本によって分類番号がきめられ、それにしただがって並べてある。本をさがしたり、返したりするときに分類番号を知っていると便利であり、また片寄りなく本を選ぶことができる。

学級の実態をみるとほとんどの子が読みたい本を・絵を見ておもしろそう・先生や友達に聞く・本棚を全部回ってさがすと答えている。

分類番号を意識して選ぶという子は3人だけであった。また読書傾向をみると絵本や物語りに片寄っていて、課題がないと他の領域を読もうとする子は少ない。

3年生の読書活動のねらいは「いろいろな読み物を読もうとする態度を育てる」なので、本の分類について興味をもって理解させながら本の選択や扱い方、あわせて読書の領域を広げていけるようにしたい。

### 3. 児童の実態（略）

### 4. 本時の指導

#### (1) ねらい

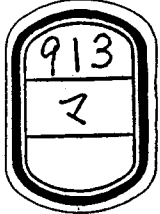
図書館の本は大きく分けて10区分されていることを知り、本の探し方、返し方になれる。

#### (2) 授業仮説 《作業仮説1》

図書館利用の時間に、実際に本を手に取り分類番号に目を向け確認することで興味がわき分類を意識して本を選ぶようになるだろう。

#### (3) 展開

流れ	活動の内容	指導上の留意点	準備・資料
導 入 5分	1. 読みたい本の探し方について経験を発表する。 ・困ったこと ・手ががりにしたこと	・学習シートを手ががりに発表させる。(前日の課題) ・読みたい本が探せなくて困ったことなど具体的に発表させる。	・ワークシート
展 開	2. ラベルの役割について理解する。	・グループごとに分類の違う本を人数分配しておく。	・分類の違う本、各4冊(図書館の本)

<p>展    開 30分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラベルの色、番号に目をつけ、左はしの数字と書名を発表する。</li> <li>書名カードをみて気付いたことを話し合う。</li> <li>図書館の本は、分類により10区分されていることを確認する。</li> <li>各自の読書傾向を個人カードで知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自一冊ずつ手にとって確認</li> <li>拡大ラベルを提示する。</li> <li>図書分類番号の読み方に注意 9 1 3 キュウ イチ サン</li> <li>書名を書いたカードを発表ごとに黒板に提示。</li> <li>仲間わけされていることに気付かせる。</li> <li>本を探したり、返したりするときには、ラベルの0～9の分類番号を手ががりにするとよい。</li> <li>読書傾向を知らせることによって読書領域を広げるよう意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拡大ラベル </li> <li>書名カード</li> <li>図書館</li> <li>個人カード</li> </ul>
<p>まとめ 10分</p>	<p>3. 本をもとの場所へ正しくもどせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>返し方の練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に図書館へ行き分類番号ごとに本が並べられていることを確認させる。</li> </ul>	

#### (4) 評価

- 本の10区分の仕組みが分かったか。
- 図書の分類番号を意識し本を探したり、返したりできたか。

#### (5) 作業仮説①の検証

図書分類法の指導と本との出会わせ方の工夫することによって興味がわき本に親しむ子が育ったか

##### 〈実践1：図書の分類〉

- T：今までみんなは図書館で読みたい本をどのように探していましたか。また困ったことはなかったですか。
- C：先生や友達にきいたりします。でも、友達も分からないときとか図書館の先生がいないとき困りました。（同じです）
- C：全部の本だなをみてさがしたけどなかなか見つからなくて、チャイムがなって借りれなかった時こまった。（同じです）
- C：本についているラベルでさがします。 ～略～
- ◆子どもたちの体験発表からいろいろな探し方をしていることがわかる。
- T：いろいろ困ったこともあったんだね。それじゃ今日は図書館の本を早く見つける方法を勉強しますよ。さっきラベルで本を探している子もいましたよね。



◆本を探す手がかりにするのがラベルであるということ。児童に一冊ずつ本を配りラベルの色、数字、カタカナに注目させ説明をする。

C：ぼくのは赤色で9（同じです） カタカナはマ

C：わたしは水色で4（同じ） カタカナはセ ～略～

◆それぞれのラベルの数字をいいあい、ちがいに気づき興味をもちはじめている。

C：9は童話とかお話しの本だ。2はエジソンとかだから伝記。

C：7は図工とか音楽とか、0は調べる本や沖縄のことみたい。 ～略～

◆子どもたちはそれぞれの数字と書名を発表させると、本の種類ごとに番号が区分されていることに気づいている。

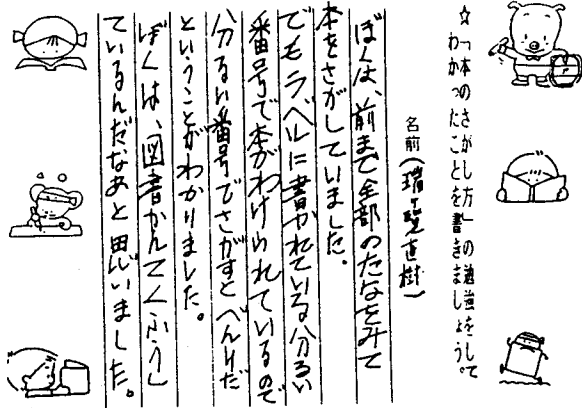
T：いいことに気が付いたね。ラベルの数字は分類番号といって0から9までの10に分けられていてその分類ごとに図書館の本は並べられているんだよ。それから二段目のカタカナは、その本の作者の頭文字です。 ～略～

◆図書館へ行き本が本当に分類され並んでいるか確認して、自分が使った本も同じ分類の場所に正しく返せる。

C：ラベルはちゃんと意味があったんだ。

C：ラベルの色や分類番号を知っていたら早く本が見つかることが分かった。

C：返すときも同じ分類の棚へ返せばいいから分かりやすい。



### 〈実践2：本との出会わせ方の工夫〉

学級では子どもたちに「おもしろそう、読んでみたい」と思う気持ちを起こさせることとしていくつか取り組んでできました。（P.32読書意欲を高める工夫参照）その一つを取り上げてみますと、朝の読書の時間クイズを組み込んだ紙芝居、行事にあわせた本の読み聞かせ、子どもたちは身を乗り出して一生懸命聞いています。終わると「次は何かな」「もっと聞かせて」「次は昆虫の本がいいな」と、リクエストもできます。子どもたちにはすごく楽しい読書時間であることが伺えます。



以上が「図書分類の指導」と「本との出会わせ方の工夫」の際の子どもたちの反応や発言及び感想である。それと合わせアンケートの回答（P.30問⑦）読みたい本を探すときラベルの分類番号を意識して探すという子が4月3人だったのに対し図書分類の学習後は22人と増えている。このことから「図書分類法の指導と本との出会わせ方の工夫」が子どもの興味をわかせる、本に親しむ子が育つたととらえることができる。

## 学級活動指導案

日時 平成11年6月30日(水) 4校時  
場所 宜野湾市立嘉数小学校 3年4組  
学級 男子18名 女子20名 計38名  
指導者 新垣 留美子

### 1. 題材名 『楽しい読書会をしよう』

### 2. 題材設定の理由

朝の活動の時間に、読み聞かせをするため学級に行くと、子ども達が静かに読書を始めていて感心させられた。

3年生は活動的で刺激を外に求めるので、読書指導の難しい時期だと言われることが多いが、幸いにも学級の子ども達は読書が好きであることが伺えた。ただほとんどの子が今のところ個人読書を楽しんでいるようなので、それを集団で一冊を読み深め、その発展として、グループで考えた表現方法でその本を紹介し合うという、今までと違った読書の楽しみ方も経験させたいと思う。

読書意欲を高めながら、その過程においてのお互いの頑張りや良さを認め合う場がつかれ、子ども達に満足感、充実感を与え学級の団結力も高まるだろうと考える。子ども達は集会活動が好きである。体を動かす活動、創意工夫のある活動、そしてみんなで一つのことに取り組める活動があることは楽しいことであり、教師からそして級友から認められ励まされる場があることはうれしいことだと思う。その集会活動として学級読書会は有効な手段だと考え本題材を設定した。


### 3. 児童の実態

学級に行くたび「先生今日は何の本?」、「先生この幼虫さあ」等などあちこちから元気な質問がとんでくる。けれども、いざ授業で発表の場となると自信がなくなったり、恥ずかしがったりして、自分の意見を発表する子は数名だけで全体的に引っ込み思案が多い。

アンケートでは、1人で発表するときの気持ちとして、ドキドキする、コワイ、恥ずかしいと答えた子が多かった。グループで取り組む場合は競争意識と、一人じゃないという心強さもあるだろうが元気に活動できるので、やればできるという自信を持たせ発言力を高めたい。

読書についてはほとんどの子が(すき)と答えている。学級文庫を設けたらどの子ども朝の自習や休み時間に読書を楽しんでいる。借りている本は9類や絵本類が多いが、分類法を学習した後から意識して他のジャンルを読む子どもでてきているので、読書会を通して増えるのを期待したい。

#### 4. 指導計画

月 日	内 容	活 動 の 場
5 月	〈教師〉 ◎読み聞かせ……おもしろい話、心ゆさぶる話、行事の話 ◎ブックトーク……教科の発展教材として ◎音読・群読……教科の発展教材として ◎図書分類法の指導……10区分を知らせる  ◎読書記録のしかた……読書ノート、読書記録カード ◎読書紹介〈児童〉……自分のおすすめの本を紹介	・朝の読書時間 ・理科（1） ・国語（1） ・図書館の利用の時間 ・裁量の時間 ・朝の会、帰りの会
6/17	◎「学級読書会」のねらいを知り自分の考えを書く ◎学級会打ち合わせ	・音楽（15分） ・放課後
6/19	◎話し合い活動「楽しい読書会をしよう」	・学級活動（1）
6/21 ↓ 6/28	◎グループ活動 ・紹介する本を読み進める ・必要な道具の作成 ・練習	 ・国語（2） ・読書単元「本は友達」 ・図工（2）紙芝居づくり
6/25	◎プログラムづくり	・放課後
6/30	◎「楽しい読書会をしよう」（本時）	・学級活動（1）
7/3	◎楽しく読書をする	・図書館利用の時間

#### 5. 指導にあたって

- (1) 紹介する本や、表現方法はグループの相談によって決めさせる。必要であれば教師も資料やアイデアを提供するが、自分たちで頑張ったという意識を損なわないようにする。
- (2) 読み聞かせ、ブックトーク、読書紹介については継続中である。
- (3) 活動に必要な用具の準備をする。（画用紙・マジック等）
- (4) 教師も共に活動し、励ましや称賛の声かけをする。

#### 6. 本時の指導

##### (1) ねらい

- 協力して取り組んだものを楽しく発表する。
- 各グループの発表をしっかりと聞き頑張りを見つける。

(2) 授業仮説

○読書会で、各グループが本の紹介方法を工夫しあうことで読書への関心、意欲が高まり、読書領域も広がるだろう。

○発表後にふりかえりカードを使い、自己評価や相互評価させることによって、頑張りや、良さに気づくことができるだろう。

(3) 展開

流れ	活動の内容	係・準備	留意点
導入 (五分)	1. 始めのあいさつ 2. みんなで楽しく 3. 先生の話 ・発表の進め方をプログラムで確認 ・めあての確認	司会 ・アン ・都子 ・政務 (テープ) ・教師	・元気よくあいさつしたり、踊ったりして楽しい雰囲気をつくる ・これまでの経過を思い起こさせ楽しい読書会にしようと意欲をもたせる ・発表者、聞き手のポイントをおさえる
展開 (二五分)	4. 各グループの発表 (発表を聞く) ①物がたりグループ (クイズ) ②元気グループ (紙芝居) ③ドラゴングループ (群読) ④さわやかグループ (折り紙) ⑤ニコニコグループ (紙芝居) ⑥スーパードラゴン (ペープサート) ※発表が終わったら表紙を黒板に掲示する	司会 ・アン ・都子 ・紹介する本 ・小道具	<発表者> ・自信を持って発表するように励ます グループ名、小道具や工夫したことも紹介させる ・流れがスムーズに行くよう動作を機敏にさせる <聞き手> ・「よい聞き方」を意識させる 終わったら拍手をする
まとめ (五分)	5. よかったところを見つけよう ・ふりかえりカードを書く ・感想を書き発表する 6. 終わりのあいさつ	・教師 ・読書ノート ・光	・よいところを認め合うことで、一人一人が成就感を味わう様にする ・全グループの取り組みを称賛し、さらなる意欲化をはかる

#### (4) 評価

- ・読書会に興味を持ち、グループでの話し合いや準備、練習を協力して取り組めたか。
- ・楽しく、力いっぱい発表できたか。
- ・他のグループの発表を静かに聞き、よさを見つけることができたか。
- ・自らの読書傾向をふりかえり、次の読書活動への意欲が高まったか。

#### (5) 作業仮説②の検証

教師や児童相互で認め合う雰囲気をつくることで全員が生き生きと活動できたか

☆司会の元気な挨拶と、自分たちで選んだ「だんご3兄弟」の踊りは全員の緊張を解くのに有効だったと思われる。



T：先週から準備してきましたが今日がいよいよ発表です。どのグループが何をするのか楽しみでしょう。今日は全員発表する人であり聞く人です。全員でめあてを読みましょう。

C：大きな声で発表する。静かに聞くよいところを見つける。

T：元気良く言えましたね。それともう一つ忘れていけない事は何かな。

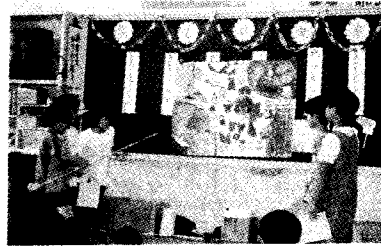
C：大きな拍手をしてあげる事です。

☆めあての確認をしたことは、これまでの頑張りを思い起こさせ、楽しい読書会にしようと思意欲を持たせるとともに、後から発表する側と聞く側の立場での良さの認め合いをする上で有効だったと思われる。

C：物がたりグループはクイズをやります。



C：折り紙の動物園を作りました。白鳥が上手に折れました。



C：ニコニコグループは骨の不思議の紙芝居です。骨を描くのを工夫しました。



～略～

T：どのグループもアイデアいっぱいみんなで力を合わせたのがよくわかりますよ。次は自分達やお友達の頑張った所を見つけて振り返りカードにかいて下さい。

※全員思い出しながら書いている。

T：発表お願いします。

C：ドラゴングループの「きりなしうた」が動作もよく考えていて上手でした。声も大きかったです。

C：「3匹のかわいいオオカミ」の人形とかたくさん作って頑張っていました。お話もおもしろかったです。

T：時間がなくて二人だけしか発表してもらえないけどみんなのノートを見たらちゃんと友達のいいところを見つけてありましたよ。

★良さの認め合いの時間が少なく二人だけの発表になったが、全員が友達や自分の頑張りを記してあったことを紹介して認めることとした。次は子どもたちのふりかえりカードと感想である。

発表方法ふりかえりカード

名前(木原千未)


☆自分をふり返ってみよう	◎とてもよい	○ふつう
発表方法	◎	○
本の題名	3びきのけき	
みんな	● がんばったことや、感想を書きましょう	
難力	◎	○
大きな声で	◎	○
発表を静かに聞く	◎	○

わたしたちはけきにつかろうと努力をがんばってがんばりました。みんな大きな声でいえました。

☆よいところを見つけよう	◎とてもよい	○ふつう
よいこと □	◎	○
(1)物たりグループ どうぶつくイズ	◎	◎
元気グループ ぶんぶくちやがま	◎	◎
ドラゴングループ きりないうた	◎	◎
さわやかグループ おり紙	◎	◎
ニコニコグループ はねのふしぎ	◎	◎
10スーパードラゴングループ 3びきのかわいいオオカミ	◎	◎


よかったところは自分でも声か大きくなれたことです。道くもみんなで作ってよかったです。アミンの音が大きくなってよく聞きました。

よかったです。自分でも声か大きくなれたことです。道くもみんなで作ってよかったです。アミンの音が大きくなってよく聞きました。




わたしたちは、おり紙の動物園を作りました。いろいろな人がきいて、どきどきしていました。いっしょにがんばって、いっしょにのびのびと楽しめました。

玉城 結



はやくはやくと大きくなって、みんなの大きな声で発表しました。みんなの大きな声で発表しました。みんなの大きな声で発表しました。

山本座門 清久




3びきのかわいなおオオカミのけきをよかったです。自分でも声か大きくなれたことです。道くもみんなで作ってよかったです。アミンの音が大きくなってよく聞きました。

山田 美乃里

★発表はクイズ、紙芝居。群読、折り紙等発表方法も様々で、小道具においては大小あり、人形などが小さくて見えにくいのではと気になったが、あえて指導はせず子どもの自主性に任せた。小さい人形だけに迫力には欠けるが、逆に見る側には動きに集中しているし演じる側には、自分達で頑張ったという自信で生き生きと演じている姿が見られたことから活動意欲を損なわずにすんだと確信する。


★授業前と後の子どもたちの発表に対する気持ちが「ドキドキ・恥ずかしい・こわい」から「発表できてうれしい・楽しかった・またやりたい」と変化している。これは、読書会を通して学級全体が、発表者と聞き手としての立場で、お互い認め合いの雰囲気をつくった結果だと思ふ。

以上の事実により「教師や児童が認め合いの雰囲気をつくることで生き生きと活動できた」と、とらえることができる。




また、みんなの大きな声で発表しました。みんなの大きな声で発表しました。みんなの大きな声で発表しました。

渡久地 正太郎



はやくはやくと大きくなって、みんなの大きな声で発表しました。みんなの大きな声で発表しました。みんなの大きな声で発表しました。

新田 一



わたしたちは、3びきのかわいなおオオカミのけきをよかったです。自分でも声か大きくなれたことです。道くもみんなで作ってよかったです。アミンの音が大きくなってよく聞きました。

山本座門 清久

## VIII 研究の成果と今後の課題

本研究は「一人一人が生き生きと活動する学級経営の工夫」というテーマで、学級経営の中に読書活動を位置づけ、読書意欲を高める工夫。そして児童全員が良さを発揮できるような集会活動としての読書活動を子ども達と考え展開してきた。その成果と課題として次のようなことが上げられる。

### 1. 成果

- (1) 学級文庫の設置、分類指導、教科や行事と関連させた読み聞かせをしたことで、読みの力に個人差はあるが、読書の幅が広がってきた。
- (2) 読書会の計画時から発表までの間、各グループとも刺激しあって、お互いを高め合う事ができた。
- (3) 読書会における司会、プログラムづくり、飾り付け等の役割を子ども達自身で分担するなど自主的にやろうとする態度が育った。
- (4) グループで作業を分担し進める中で、自分の得意なものを発揮したり友達の特技を発見したりと認め合う雰囲気ができ、最後まで協力して取り組み団結力が高まった。

### 2. 課題

- (1) 学級活動と教科を関連させ指導計画を立てたが、それでも配当時間内に納めるのが難しく45分の休みにも取り組んだ。読書会を継続するためにも時間を生み出す方法、単元と関連づけられないか、各教科をさらに分析する必要がある。また学級の取り組みから学年全体へと発展させ、子ども達の活動意欲をさらに高められるよう研究を深めたい。
- (2) アンケートで、「調べられる勉強は好きだ」と答えているにもかかわらず調べ学習での図書館利用は少ない。読書は「自己教育力」を培う大切なものでもあるので今後は教科と結びつけて調べ学習等の課題を持って図書館利用もできるような指導・支援をしていきたい。

### 3. おわりに

この6ヶ月の研修期間は、多くの文献や研修資料等での理論研究と授業実践を通し、学級担任の役割と学級経営の重要性を再認識する機会となった。今後も、子ども達の「みんなでやると楽しい」「みんなとまた活動したい」「早く学級にいきたいな」の声がどの子からも聞こえてくるような学級づくり、すなわち「一人一人が生き生きと活動する学級経営の工夫」を常に研究していきたい。

#### 《参考文献》

- |         |                 |       |       |
|---------|-----------------|-------|-------|
| * 叙持 勉  | 『授業を支える学級経営』    | 明治図書  | 1996年 |
| * 瀬戸 真  | 『読書活動の組織化かと指導』  | 大日本図書 | 1985年 |
| * 白須 富夫 | 『楽しい授業で学級づくり』   | あゆみ出版 | 1997年 |
| * 岡本 孝司 | 『3年生の学級活動』      | 教育出版  | 1991年 |
| * 梶 千枝子 | 『学級活動を変える実践プラン』 | 明治図書  | 1998年 |